「お客さま本位の業務運営方針」に係る主な取組状況

明治安田アセットマネジメント（以下「当社」）における、「お客さま本位の業務運営方針」に係る主な取組み、および取組みに係る定量指標は次のとおりです（2023 年 6 月現在）。

運用の高度化

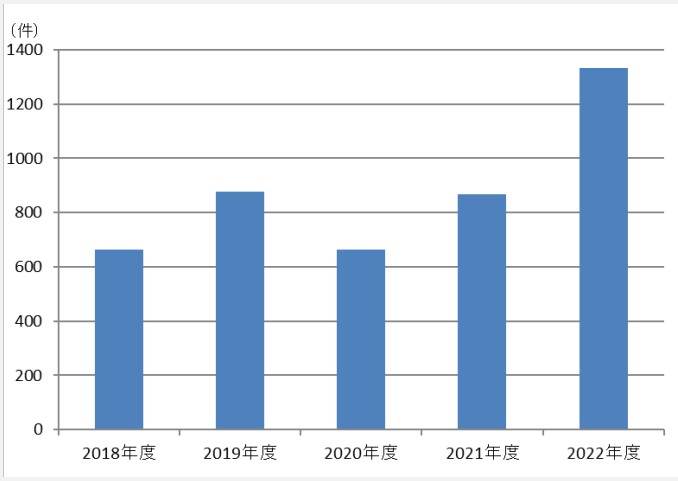
- E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）を考慮したエンゲージメント活動の実効性向上に取り組み、調査対象銘柄に対する ESG 社内格付（ESG スコア）を付与し、運用プロセスへの ESG 要素の反映に取り組んでいます。また、スチュワードシップ活動の振り返りと自己評価を行い継続的に公表しています。

  ＞ スチュワードシップ・レポート 2022（PDF：2.31MB）

- 当社のスチュワードシップ活動はその取組みが評価され、国連責任投資原則の年次評価において 2019 年は「戦略とガバナンス」部門で A+評価、2020 年は「戦略とガバナンス」部門、「上場株式 ESG 投資」部門、「上場株式 アクティブオーナーシップ」部門で A+評価、2021 年は「投資とスチュワードシップ方針」「上場株式における ESG 統合（アクティブ）」「債券（社債）」において 5 段階評価における最高評価を獲得しています。

- 2023 年 1 月、気候変動問題解決への取組みを通じて持続可能な社会の形成を目指すイニシアティブである「The Net Zero Asset Managers initiative」に加盟しました。当社は経営理念において「インベストメント・チェーンの一員として持続可能な社会の形成に貢献」すること、「お客さまに最も信頼され、満足いただける資産運用会社を目指す」ことを掲げており、アセットオーナー等のお客さまと協働しながら、投資ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量のネット・ゼロ実現を目指してまいります。
- 運用の高度化等に資する人財育成に継続的に取り組んでおり、社員の教育・研修等、人財開発事項を専担とする「人財開発部」が教育訓練計画を取りまとめ、キャリア形成支援メニューの体系化や拡充等、人財育成体制の強化を推進しています。また、新卒採用かつ入社 5 年以内の社員を中心に、資産運用ビジネスに関する幅広い知識や視野を身につけるための取組みを進めています。

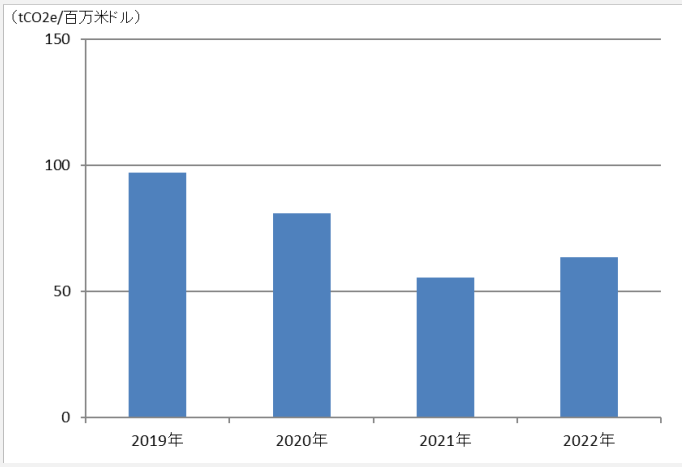
【図 1】企業との対話件数



当社は、日本版スチュワードシップ・コードに対応した取組方針を定め、特にボトムアップ・アプローチに基づくアクティブ運用においては、投資先企業との建設的な「目的を持った対話」を通じて持続的成長を促し、お客さまの中長期的なリターンの拡大を図ることを目指しています。

※2021 年度から債券運用における発行企業との対話に取り組んでおり、2021 年度以降の件数に含めて表示しています。

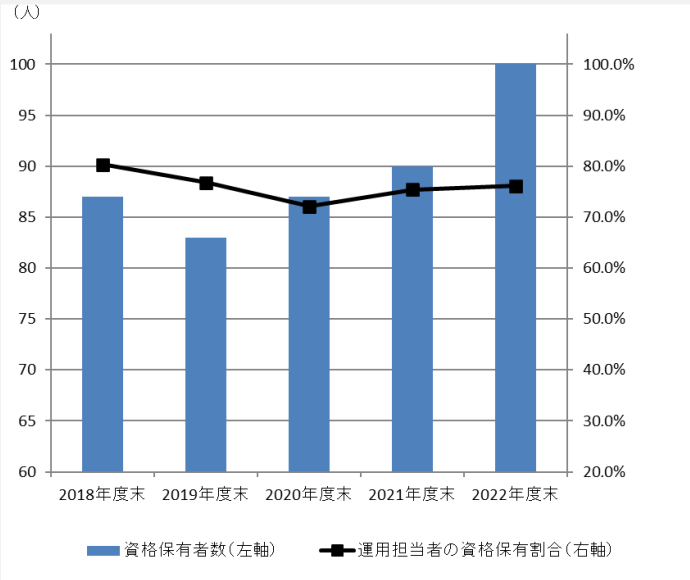
【図２】運用ポートフォリオの GHG 排出量（カーボンフットプリント）



当社は気候変動問題解決への取組みとして投資ポートフォリオにおける温室効果ガス排出量のネット・ゼロ実現に目指しています。

※国内株式・国内債券・外国株式・外国債券全体の数値

【図３】証券アナリスト資格保有者数（運用担当者の資格保有割合）



クオリティの高い資産運用サービスを提供するために、資産運用プロフェッショナルとしての人財育成に努めています。

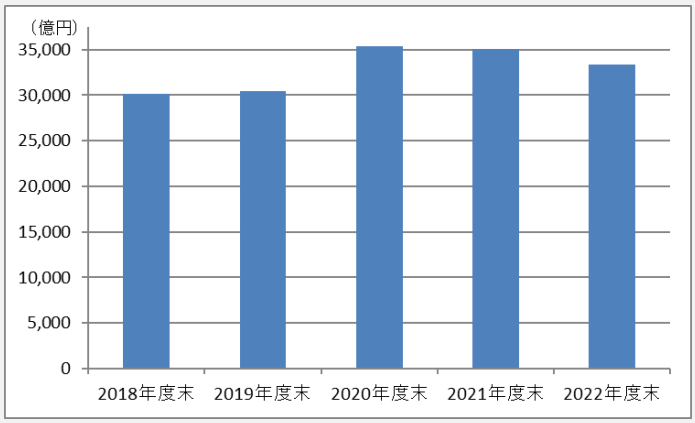
お客さまにふさわしい商品・サービスの提供

- 多様なお客さまニーズに応えるため、幅広いカテゴリーの新商品開発、提供を行うだけでなく、運用実績が良好な既存商品のプロモーションを推進する等、利用者の利便性向上に継続して取り組んでいます。

- 運用会社各社が一般のお客さま向けに投信の情報提供を行うイベント等への参加、アンケートへのご協力のご依頼等を通じて、お客さまの声・ニーズを反映した商品開発、資料作成に継続して取り組んでいます。

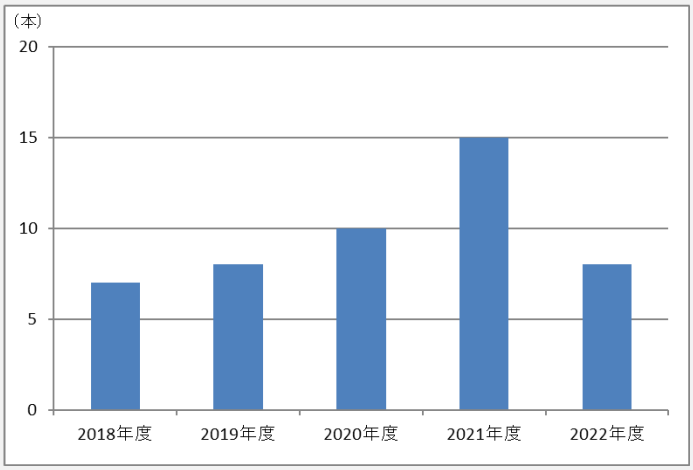
- 社内に動画撮影・編集を行うためのインフラの設置、整備を行い、ファンド紹介・説明用動画の作成・提供、お客さま向けセミナーのライブ配信等に取り組んでいます。

【図４】運用資産残高（単位：億円、投資助言を含む）



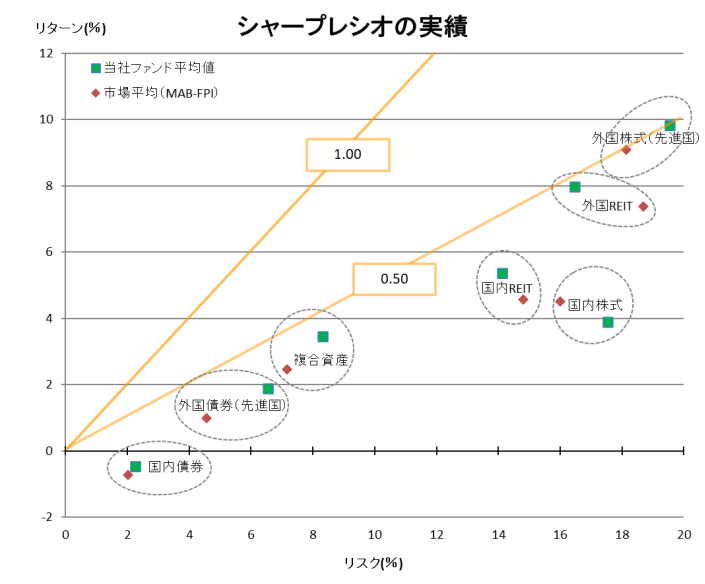
お客さまのニーズに沿った商品の開発、品質管理の高度化に努め、お客さまに信頼と満足をいただける商品・サービスの提供に取り組んでいます。

【図５】ファンドアワード受賞本数



お客さま、外部評価機関※からのさらなる評価向上に向け、クオリティの高い商品の提供に努めます。
※集計対象は、「R&I ファンド大賞」「リフィニティブ・リッパー・ファンド・アワード・ジャパン」

【図 6】公募投資信託ファンドの運用資産別平均シャープレシオ（2023 年 3 月末現在）



お客さまの資産について、適切なリスクコントロールのもと、中長期的な成長を図ることを目標として、各アセットクラスおよび運用スタイルでそれぞれの特性を活かした運用を行います。

※対象の投資信託は、当社の公募追加型株式投資信託（除く ETF）です。
※シャープレシオとは運用成績を測る指標の 1 つで、ファンドの収益率から無リスク資産の収益率を引いた値をファンドの収益率の標準偏差で割った値で、運用効率の高さを示します。リスクは過去 5 年間の月次リターンの標準偏差の年率換算値で、リターンは過去 5 年間の年率換算後のリターンから無リスク資産（無担保コール）のリターンを引いた値です。
※本資料は、三菱アセット・ブレインズ（株）（以下、MAB）が信頼できると判断した情報源から入手した情報をもとに作成していますが当該情報の正確性を保証するものではありません。また本数値は、信頼できると思われる各種データにもとづいて作成していますが、過去の実績を示すものであり将来実現することを保証するものではありません。
※市場平均は MAB 投信指数「MAB-FPI」から計算しています。
※MAB-FPI は、MAB が開発した日本の公募追加型株式投資信託全体の動向を表す日次投資収益率指数です。本指数に対する著作権等の知的財産その他一切の権利は MAB に帰属します。MAB は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。

わかりやすい情報提供

- 公募投信における情報提供に関して、交付目論見書への QR コードの掲載、任意開示書類の解説動画の定期配信等、お客さまへのわかりやすい情報提供に継続的に取り組んでいます。また、当社が想定するお客さまの属性および販売会社の特性に応じた適切な情報の提供に取り組んでいます。

- 当社ホームページでは投信商品ごとに第三者のファンド評価機関によるレーティングを表示する等、客観的な情報を充実させるとともに、投資環境に関する定期レポートの発信等タイムリーな情報提供に努めています。また、お客さまに中長期的な資産形成により関心をお持ちいただけるよう、コラム等の親しみやすい情報発信も行っています。加えて、当社ホームページの作成、運営においては、導線やレイアウトの工夫等により、お客さまのご理解の促進と利便性のさらなる向上に向けた取組みを継続して行っています。

- 団体年金のお客さまへの情報提供に関して、プロダクト・マネジャーを中心に法人本部、運用部門、事務部門が連携して、運用報告資料等の高度化に向けた見直し・整理に継続して取り組んでいます。

利益相反の適切な管理

- お客さまの利益が不当に害されることのないよう適切な態勢整備を図り、利益相反を適切に管理することを目的として「利益相反管理規程」を定め、利益相反管理の推進・徹底を図る「利益相反管理責任者」をおいています。当規程では、管理されるべき対象取引を特定し、取引の中止等の各取引事例に応じた管理方法を具体的に定めており、利益相反管理責任者の指揮のもと、全社的な利益相反状況の把握・管理に努めています。

- スチュワードシップ活動における利益相反の管理強化を目的とした、独立社外取締役を主要構成員とする取締役会の諮問委員会「スチュワードシップ諮問委員会」の運営を行っています。2022 年度は、当委員会を 2 回開催し、議決権行使結果および議決権行使プロセスに関する適切性、株式議決権行使に係る規程・ガイドラインの改廃に関する適切性等の審議を実施し、審議結果について取締役会へ報告しました。

ガバナンス体制

- 監査等委員会設置会社として、監査等委員会やスチュワードシップ諮問委員会の安定的な運営等を通じて、ガバナンス体制・内部統制システムのさらなる深化に継続して取り組んでいます。

- 社長を委員長とし、執行役員を主な構成メンバーとする「企業ビジョン実現推進委員会」を定期的に開催しています。当委員会では、「顧客本位の業務運営に関する原則」への取組みや、資産運用会社としての社会的責務の遂行を含む企業ビジョン実現にむけた意見交換を行うほか、部門横断的なメンバーによるワーキンググループの活動を通じて各種取組みを推進しています。

- 「お客さま本位の業務運営方針」に係る取組状況について、半期ごとに独立社外取締役が出席する取締役会へ報告しています。

以上

明治安田アセットマネジメント株式会社